

芝地区公式SNSフォローしてね！

芝地区地域情報誌

VOL. 74

2026年7月発行

発行部数 31,500部

発行

港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1-5-25(港区役所2階)
TEL 03-3578-3192 FAX 03-3578-3180

ボランティアの
編集委員が
つくっています



バックナンバーをWebにて公開中

芝情報誌

検索

SHIBA-TAG

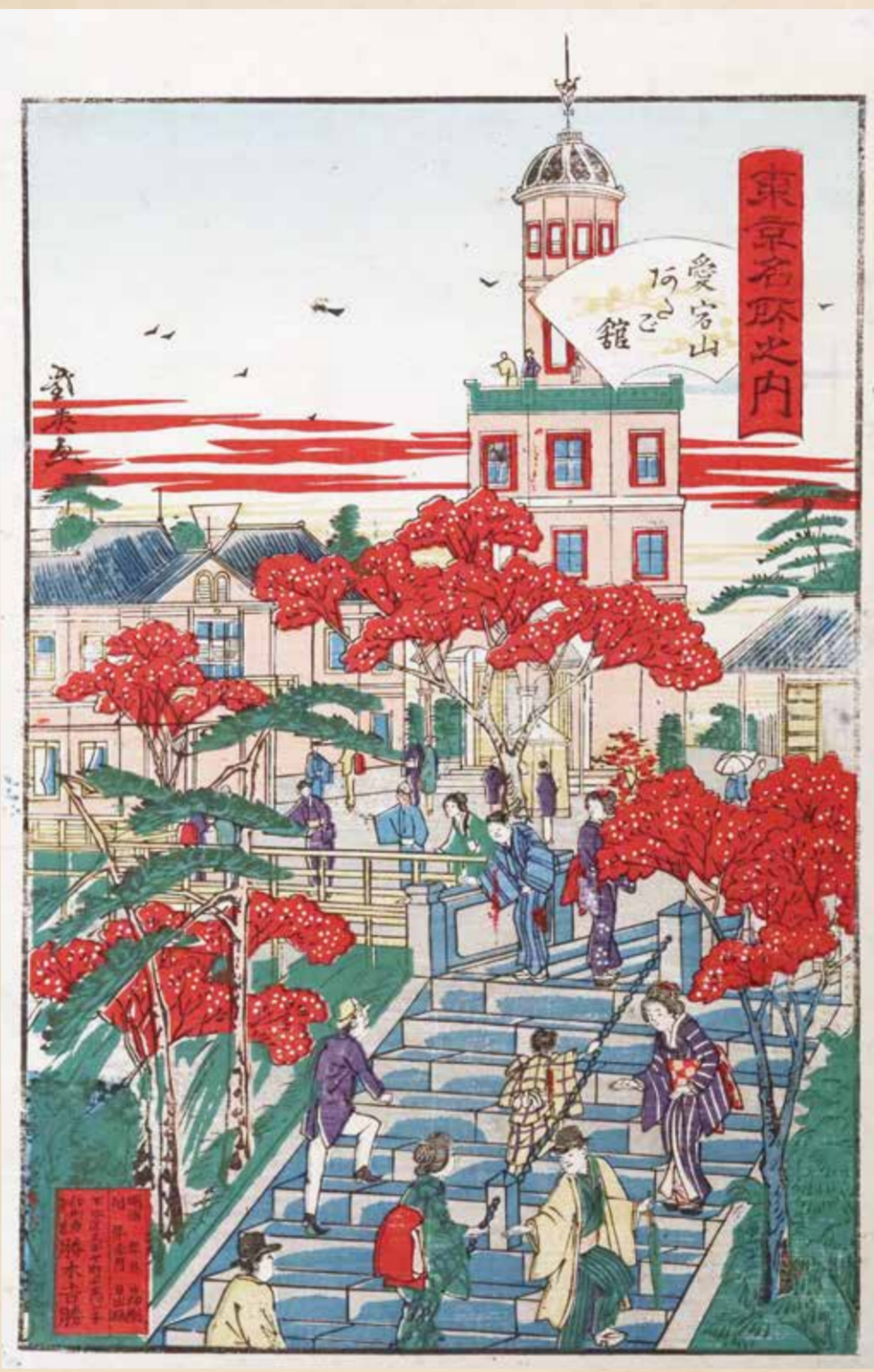
しばタグ

歴史探訪

愛宕山^{げん えい}幻影

公園、愛宕館、愛宕塔

明治時代、愛宕山が公園になり、山上に貸席と料理、後にホテルとなった愛宕館、さらに望遠鏡付八角形の高さ約30mの5階建て愛宕塔が建設されました。この愛宕塔の望遠鏡で白髪の妖怪が人の内証事をのぞいていた、との幻想小説を小説家、泉鏡花が書くほど珍しい塔でした。



東京名所之内 愛宕山あたご館
作者名：小林幾英 港区立郷土歴史館 所蔵



芝愛宕山公園
山本松谷 画 ほか『明治東京名所図会』，講談社，1989.7.
国立国会図書館デジタルコレクション



愛宕山の眺望 男坂と女坂
玉井哲雄 編『よみがえる明治の東京：東京十五区写真集』，角川書店，1992.3.
国立国会図書館デジタルコレクション

芝および愛宕山公園計画

明治6年(1873)明治政府は、各地の景勝地を人々が散歩し、楽しみ、健康の助けになる公園とすると布達を出し、東京では金龍山浅草寺、東叡山寛永寺、三縁山増上寺、富岡八幡社などが公園になりました。この流れの中、明治19年(1886)に愛宕神社ほか氏子総代3名が「芝区愛宕神社境内公園地開設願」を提出し、東京府知事から「芝愛宕神社境内ヲ以テ公園ト爲シ、愛宕山公園ト稱ス」と告示されました。その後、明治43年(1910)に東京市公園改良設計調査報告書が作られ、芝公園と愛宕の高丘を連結すれば、空のはてまで百萬都市を眺められるとして、愛宕山から歩道をつづけ芝公園に向かって陸橋を設ける計画案が出されましたが、実現しませんでした。

(2面へ続く)

しばタグ 目次 VOL.74

● [歴史探訪] 愛宕山幻影	P1	● [ご近所ラボ新橋] めんどくさいカフェタイム	P7
● [とらここ] 虎ノ門いきいきプラザ	P3	● [芝の家・ちゃぶ台日誌] 夏編	P7
● [m-m ing] 港区芸術センター「m-m」開館準備室の現在地	P4	● [しばあるき] 芝公園	P8
● [芝の老舗] 津國屋	P5	● 港都税務所からのお知らせ	P8
● [Illuminato People] 西岡篤史さん	P6		



愛宕館 愛宕塔

明治19年、愛宕山公園内に庭園を設け、内外貴客紳士の休憩、集会などに利用する建物の「地所拝借願」を、芝田町・山田忠兵衛（米穀商、東京府議會議員）、三田・松山棟庵（医師）、芝浜松町・子安岐（読売新聞社長）、三田・谷元道之（東京馬車鉄道創立者）、愛宕町・三猪謙三（医師）、露月町・小松崎茂助（洋剣西洋小間物商）、芝金杉浜町・田嶋安太郎（東京商工銀行取締役）らが提出し、東京府が許可しました。山田忠兵衛が館長に、松山棟庵、田嶋安太郎、芝三島町・阿藤重兵衛（鉄物商）、三田・手塚長八（質屋）、葺手町・山崎堯一（薬舗）、西久保桜川町・石丸安世（芝区会議員）らが幹事となり、当時としては珍しい有限会社愛宕館を設立しました。世間では「芝区有志の倶楽部」と呼んでいたようです。

愛宕館は、淡黄色のペンキで塗り2階建て、窓のガラスが美しく、西洋料理、貸席として使用されました。

愛宕塔は、5階建て、頂ぎに避雷針、八角形のろうそく型、煉瓦に白壁をほどこし、らせん状に上ります。望遠鏡は最上階にあり、その眺望は、「遠くに房総半島の鹿野山、鋸山が見え、浜離宮の松緑、右に芝濱にある製造所の煙突、海水浴場、東北に汽車が進行する新橋停車場、左に農商務省、日本銀行、帝国ホテルなどの建物、遠くに蔵橋の煙突、浅草凌雲閣などの屋根、北にニコライ会堂など、西北に星岡山の社、溜池」が見えたそうです。

設計は、愛宕館が伊藤為吉と慶應義塾福沢諭吉の甥、工部大学校造家科を卒業した藤本寿吉、および愛宕塔が平野（佐藤）勇造と伝えられています。

愛宕館から愛宕山東京ホテルへ

明治24年（1891）5月に愛宕館で、6代目尾上梅幸の幼名改名の際の披露が行われ、また新富座で地元応援の『愛宕館芝浦八景』が演じられました。明治27年（1894）に改進黨、明治28年（1895）の政友会有志会など幾度と政治集会に利用されました。

創業時の愛宕塔、愛宕館は賑わったようですが、明治29年（1896）3月愛宕館の館長が山田忠兵衛から田嶋安太郎に交代し、有限会社愛宕館は4月に解散しました。その後、同年5月鉄道に関わる野田益晴が愛宕館を譲り受けています。明治35年（1902）4月に衆議院議員日向輝武が愛宕館を買い、営業主任に有楽町にあった東京ホテルの主人山崎武八郎がなり、愛宕ホテルと改称して内外人旅館、和洋料理、貸席などの営業を開始しました。

日向輝武はアメリカに行き、ハワイで移民事業に従事し、帰国後、衆議院議員になった人物です。山崎武八郎は、ロンドン・パリにて修行した西洋料理のシェフで、明治28年『日用西洋料理法』という料理本で、自らを「東京ホテル館主」と名

乗っていました。有楽町東京ホテルの所有者は横浜の旅館鹿嶋屋の山室貞次郎で、山崎武八郎は経営者でした。

横浜の新聞社 Japan Gazette 社が発行した The Japan Directory（在日外国人名鑑）に、明治36年（1903）Hotel Atago-kan（ホテル愛宕館）、さらに明治38年（1905）TOKIO HOTEL Atago Hill Park、愛宕山東京ホテルとして広告を出しています。また、明治38年4月に「棉花栽培協会創立協議会」が「愛宕山東京ホテル」で開催されたとの報道が残っています。

次の愛宕館の変転は、明治39年（1906）11月30日付官報、第7027号に掲載されました。東京市芝区商号登記簿第一冊第四一
1 商号 東京ホテル
1 営業ノ種類 旅人宿営業
1 営業所 東京市芝区愛宕公園三番地
1 商号使用者ノ氏名住所 栃木県那須郡佐岡町大字佐久山九十三番地

坂巻正太郎

この坂巻正太郎は、「22歳の時に渡米。サンフランシスコにてホテル業を学ぶ。帰国後は金谷カテジインにて通訳兼支配人を勤め…中禅寺湖畔にレーキサイドホテルを開業」した人物です。明治40年（1907）の「最近東京明覧」の旧名の愛宕館の項目では、宿泊料は1等1泊7円、2等5円、3等4円、晚食料金1円とあり、愛宕山東京ホテルは、当時西洋式ホテル施設が少ない中、高級ホテルに列せられています。

明治41年（1908）横浜の The Japan Directory にも Tokyo Hotel として記載され、明治45年（1912）のツーリストビューロウの創立総会の参加者名簿に坂巻正太郎（東京ホテル、レーキサイド）とあり、さらに大正3年（1914）The Japan Directory に TOKYO HOTEL と Shaw Sakamaki, Proprietor（坂巻/正、所有者・著者註）と載っていることから、坂巻が経営していたとみられます。

一方、愛宕塔は明治40年に1度閉じられたようですが、翌年8月に再開しています。

愛宕山東京ホテルはさらに所有者が変わり、大正8年（1919）芝公園・松尾寛吾が東京市へ愛宕公園1号地の旅館営業の建物敷地としての使用願を出しました。

また、大正9年（1920）6月12日付の朝日新



愛宕館と愛宕塔
玉井哲雄 編『よみがえる明治の東京：東京十五区写真集』、角川書店、1992.3. 国立国会図書館デジタルコレクション



東京放送局



HOTEL ATAGO-KAN (1903)、TOKIO HOTEL (1905) の広告
『The Japan directory for Tokyo, Yokohama, Kobe, Osaka, Kyoto, Nagasaki, Nagoya, Nemuro, Kushiro, Otaru, Niigata, Hakodate, Sapporo, Moji, Shimonoseki and Formosa』 1903, 1905. Japan Gazette, 明治 38. 国立国会図書館デジタルコレクション

安部豊編 舞台のおもかげ 第7輯 尾上梅幸 好文社 国立国会図書館デジタルコレクション
松井悠衣/津村泰範著 愛宕塔関連資料及び設計に関する考察 長岡造形大学リポジトリhttps://nagaoka-id.repo.nii.ac.jp / record / files
宮村無声 編『成功と失敗』、文間精華堂、明治36.10. 国立国会図書館デジタルコレクション
山崎武八郎校閲 日用西洋料理法 大倉書店
奥山睦太郎編 日本ホテル略史 運輸省
川崎晴郎著 東京における初期ホテル 筑波学院大学紀要第9集
エル・デー・アダム編集・発行者 The Japan directory for Tokyo, ... 1903, 1904, 1905, Japan
ダブリュ・ジャクソン編集 Gazette. 国立国会図書館デジタルコレクション
中山泰昌編 新聞集成明治編年史第12巻 国立国会図書館サーチ (NDLサーチ)
日光金谷ホテル歴史館 https://nikko-kanaya-history.jp / history
津田利八郎著 最近東京明覧 国会図書館デジタルコレクション
日本交通公社 日本交通公社七十年史 p15 国立国会図書館デジタルコレクション
朝日新聞 東京 朝刊1896.4.29. 5.3, 1902.4.7, 4.27, 1920.6.9, 6.12 東京都中央図書館所蔵
読売新聞 1889.1. 26 1889.12.7 ヨミダス 東京都中央図書館所蔵
東京放送局沿革史編纂 東京放送局沿革史 昭和3. 国立国会図書館デジタルコレクション

聞には、「当館…賃貸のご相談に应予御希望の向は同事務所へ御來談を乞う 愛宕山公園内愛宕館」とあり、広告では東京ホテルではなく愛宕館の名前を使用していました。

大正5年（1916）に泉鏡花は、愛宕塔の望遠鏡を仕掛けにして人の心をのぞくという幻想小説『星の歌舞伎』を書きました。愛宕塔で創作意欲を掻き立てられたのでしょうか。

愛宕山東京ホテルから東京放送局に

愛宕山東京ホテル、愛宕塔は、明治27年6月20日東京地震、大正11年（1922）4月26日浦賀水道地震で各々被害をうけるも修復し、持ちこたえてきましたが、大正12年（1923）9月1日関東大震災で倒壊・燃えたようです。

大正14年（1925）2月に東京放送局が、放送地を芝区愛宕山公園地1号と決め、土地の持ち主東京市から使用許可を得て、借地権者芝区南浜町・細川力蔵と交渉し、531坪強を48,338円で購入をしました。この細川力蔵は後に目黒雅叙園の創始者となります。その後、東京放送局の電波塔は、昭和33年（1958）に完成した東京タワーを設計した内藤多仲、建物は木子七郎に依頼し、建設されました。

明治時代に愛宕山にあった愛宕館、愛宕塔は、関東大震災を契機に歴史の幻影になってしまいました。大正14年、人々の心に声を届ける東京放送局 JOAK となり、昭和31年（1956）にNHK 放送博物館が開館し、愛宕神社と共に新しい愛宕山の物語を今も創り続けています。

文：森 明



「虎ノ門いきいきプラザ」～都心の健康オアシス～

いきいきプラザとは

60歳以上の区民が集い、学び、育むための施設です。趣味やレクリエーション、学習活動、健康づくりの活動場所です。区民同士の交流や地域活動の場としても機能しています。一人でも団体でも使える施設でトレーニングルームのマシンも充実、入浴施設も完備しています。

虎ノ門いきいきプラザとは

開業は今年で20年。昨年度は年間延べ人数にして7万人以上の来場者がありました。

月平均6,200人が利用しています。他の地域に比べて住民の数は少ないものの、これだけの利用者がいるということは虎ノ門いきいきプラザの大きな魅力、秘密があるのではと思い秘密を探ってみました。

利用者は多方面から

利用者は虎ノ門地区ばかりでなく、麻布、高輪、赤坂青山と多方面から来ています。公共交通機関やタクシーなどを使って毎週通ってくる方もいます。それは施設の設備が充実しているのはもとより、職員の接遇マナーの良さがあります。利用者の声を聴くと「どの職員のかたも感じが良い」とのことです。これは大きな魅力の一つといえましょう。



ストレッチで体をほぐし健康に



2階にある充実したトレーニングルーム。60歳未満のかたもご利用できます

港区には17カ所のいきいきプラザがあります。そのうちの一つ、高層ビルが建ち並ぶ都心のご真ん中にあり、虎ノ門ヒルズの隣にある「虎ノ門いきいきプラザ」を訪ねました。

取材・文：伊藤 早苗



虎ノ門いきいきプラザ入り口



敬老・娯楽教室や和室もあります

館長からのメッセージ

現在は70歳代から80歳代の方が多く利用しています。今後は60歳代の方にも多くご利用していただきたいので、スタッフ一同知恵を出し合っています。

理学療法士、看護師、栄養士、健康運動指導士などの資格を持っている職員も併せて、21名の職員が皆様の生活を楽しめるお手伝いをいたします。

地域の皆様、いつでもお越しください。お待ちしております。



館長自らトレーニングのアドバイス



健康運動指導士と栄養士の資格を持っている太齋館長

INFORMATION

虎ノ門いきいきプラザ(とらトピア)
虎ノ門1-21-10 TEL 03-3539-2941
https://shiba-ikiiki.com/toranomon/
開館時間：月～土 9:00～21:30 日 9:00～17:00
休 館 日：年末年始(12/29～1/3) ※その他、臨時休館日があります

個人登録した方には誕生日月にプレゼントが



交通案内

《地下鉄》銀座線 虎ノ門駅、日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅
→B1・B2・B3出口より徒歩1分
※改札から出口までは約4分歩きます。
《都営バス》(渋88)(都01)渋谷駅前⇨新橋駅前一虎ノ門バス停より徒歩5分(or10分)
《東急バス》(東98)東京駅南口⇨等々力操作所→西新橋二丁目バス停より徒歩4分(or6分)
《ちいばす》(ザルート)新橋駅⇨みなとパーク芝浦→虎ノ門一丁目バス停より徒歩3分



—子どもたちを迎えて創る 新しい場所づくり—

令和9年(2027)11月の開館を控えた港区立みなと芸術センター「m~m」(むーむ)の開館準備室では、m~mのテーマの一つである「共生」を、プレ事業を通して、まだ見ぬ劇場でどのように実現していくのかを確かめようとしています。今回は、地域の子どもたちを中心に、人々の関わりから生まれる場づくりについて、開館準備室の加藤さん、藤崎さん、杉田さん、そしてプレ事業のひとつ「夏休み砂浜開放」の美術とワークショップ担当の渡辺帆帆さん(セノグラフィアー・建築家)にお話を伺いました。

『砂浜のような場所を目指して』

m~mが目指す「共生」のイメージの一つが「砂浜」だと、開館準備室の皆さんは話します。砂浜には決まった過ごし方がありません。走る人、寝転ぶ人、貝を拾う人、ただ海を眺める人。それぞれが思い思いに時間を過ごしながら、同じ場所を共有する。そこには決まったルールはないけれど、不思議と共にいる感覚がある。m~mが目指しているのも、そんな砂浜のような場所なのだ

そうです。また、完成されたものを提供するのではなく、「人と人が自然と関わりたくなるような場をつくりたい」とも話していました。

『子どもたちが集まる「夏休み砂浜開放」』

その実践の一つが、昨年に続き今年も8月に開催する「夏休み砂浜開放」です。砂浜をイメージした会場を、小学生から18歳までを対象に出入り自由なフリースペースとして開放し、子どもたちの居場所づくりにも役かっています。今年は、美術担当の渡辺さんが段ボールを使って遊び場をつくるワークショップを企画しています。空間の土台に子どもたちが自由にに関わり、手を動かしながら、徐々にその場ならではの空間へと変化していくことを想定しているそうです。

そこに集まる一人ひとりの関わりが、思いがけない化学反応のように場をつくっていく。その裏では、どこまで場を用意し、どこから人に委ねるのか。自由に過ごせることと、安心して過ごせること、その両方のバランスをどうつくるのか。そんな問いに向き合いながら、皆さんが丁寧に場を整えて

いるように感じました。さらに、その場を支える開館準備室が前に出るのではなく、そこで過ごす人たちが自然と主役になっていくような、そんな控えめなプロフェッショナリズムも印象的でした。

『変化の過程 共有から共生へ』

最初から描いた完成形ではなく、その時、その場所にいた人たちがそれぞれのままで空間と時間を共有することで生まれる、説明しきれない何か。そんな「共生」を大切にしている想いが伝わってきました。

令和9年(2027)11月の開館後には、プレ事業で醸成したその空間や人々の関わりも、更に違う姿に変わっていくかもしれません。ぜひ、m~mが導く変化の過程に参加してみてください。

取材・文:高橋 直子



▲渡辺さん©Kenji Seo



▲お話を伺った、加藤さん、藤崎さん、杉田さん



▲会場には段ボールでできた巨大生物が登場!

「夏休み砂浜開放 2026」

期間 2026年8月3日(月)~7日(金)、17日(月)~21日(金)、24日(月)~28日(金)
各日10時~17時 ※休館日:土曜、日曜、8月10日(月)~14日(金)

場所 旧三田図書館3階「みなとコモンズ」
(〒108-0014 東京都港区芝5丁目28-4)

対象 小学生以上 18歳以下 **費用** 無料

事前予約制の
ワークショップも開催!

詳細はHPよりご確認
をお願いします。



昨年の夏休み砂浜開放の様子



▲参加された方たちが描いたイラストは自由な装飾に



今年もこま
夏休み砂浜開放が行われます

INFORMATION

港区立みなと芸術センター **【建設地】** 浜松町2-3-5(3~9階)
<https://www.minatoartscenter.jp/>

令和9年(2027)11月開館予定



ホームページ



MINATOARTSCENTER

Check it out!!

も芝の老舗

知性と情を温める、三田の聖域
—『津國屋』150年のあゆみ—
「津國屋」

港区三田。再開発による近代的なビル群の白壁が空を区切り、日々その高さを競うまちにあって、そこだけが別の重力を帯びているかのような一画があります。時代を感じさせる深い琥珀色の空気を纏った、家族経営の酒処「津國屋」です。

代表の伊藤浩之さんとご両親に、老舗の歩みを伺いました。

明治元年(1868)、日本が近代国家への一歩を踏み出し、学問の府、慶應義塾がこの地へ移転する以前から、津國屋は初代の伊藤半兵衛が高輪の本店より分家し、この地で酒販店として産声を上げました。2代目の伊藤忠太郎が明治26年(1893)に建てたこの店舗は、塾生や教授たちが時代の行く末を論じてきた「三田の記憶」とまちの軌跡を、今もその煤けた梁や柱に深く刻み込んでいます。

明治の魂を宿す「城」と、 受け継がれる強運

軒先に掲げられた扁額、右から左へと綴られた「店酒屋國津」番二七〇二芝話電の古びた文字。店内には「塩小売所」のホーロー看板や、かつて周りのお屋敷へお酒を届ける際に使われた陶器製の樽「通い徳利」が整然と並んでいます。

関東大震災や戦火という未曾有の災厄を潜り抜け、奇跡的に遺された商家建築は、伝統的な「出桁造」の構造を持ち、2階部分の重厚な銅板張りが特徴的です。まさに三田のまちの生きた証人と言えるでしょう。

かつて周辺にはお屋敷が連なり、今なお格式高い三井倶楽部やハンガリー大使館が隣接するこの一画。5代目の伊藤精浩さんが現役だった時代には、この地を拠点に、銀座のまちまでお酒を届けるべく東奔西走されていました。バブル期に高層マンションが周囲を囲んでも、津國屋だけは明治のままの姿で、訪れる人々を温かく迎えてきました。

伝統と「洋食の血」が 織りなす唯一無二の味

最初のお品書きは、慶應義塾大学の授業が休みであることを伝える細い板「休講札」であったそ



当初のお品書きは、休講札を使っていた



店内

さまざまな日本酒の銘柄



歴史を醸し出す店先の扁額



「塩小売所」のホーロー看板

陶器製の樽「通い徳利」



重厚な銅板張りの建物

うで、文教地区三田ならではの遊び心に顔がほころびます。提供される料理には、一般的な居酒屋とは一線を画す「深み」がありますが、その秘密は歴代の主たちが守り続けてきた「洋食の感性」にあるのかもしれない。

かつて酒屋の片隅で角打ちをしていた時代、4代目にあたる祖父の忠雄さんは洋食を得意とし、祖母・範子さんは焼き物の名手でした。その血を受け継いだ6代目の浩之さんもまた、物心ついた時から家業の一本道を継ぐことを決意されていました。調理の専門学校を卒業後、名門の洋食店にて修行を積み、確かな技術を磨かれたのです。

平成13年(2001)、酒屋だった伝統建築を残しながら改築。現在の居酒屋スタイルへと完全に舵を切った際、浩之さんは居酒屋メニューにプロの和洋食技法を融合させました。現在も守り抜いているのは「素材を活かす手作り」という手作りの矜持です。名物のポテトサラダやオムソバの滋味深い味わいの裏には、洋食で培われた素材の引き出し方が息づいています。今でも厨房の傍らでは、5代目の精浩さんが市場に通って鮮魚を仕入れ、人気メニューの刺身をさばいています。父子の背中が並ぶ光景は、歴史が今も力強く更新されている証です。

女将の采配、姑から嫁へと繋ぐ暖簾

「店は女将でもつ」と言われます。津國屋を包み込む柔らかな空気は、代々の女性たちが醸成して



左から、伊藤精浩さん、京子さん、6代目店主 浩之さん、恵子さん

きたものです。

長年、店の「総合プロデューサー」として接客から采配までを一手に引き受けてこれたのは、先代から家訓を守るお母さまの京子さんです。カウンター越しの笑顔の接客は、絶妙な距離感で場を和ませるまさに老舗の真骨頂。店内に掲げられた日本酒の銘柄も、京子さんの達筆によるものです。また、初代から今日に至るまでを繋げた貴重な家系図も京子さんがしっかりと管理されており、一族の絆がこの暖簾を支えていることが伝わります。

そしてそのバトンは今、6代目夫人の恵子さんへと託されようとしています。元公務員という経歴を持つ恵子さんですが、浩之さんと共に歩むことを決意されました。姑から嫁へ、単なる知識ではない「もてなしの心」の継承が、カウンター越しに静かに行われています。

水色の徳利に映る、三田の未来

酒屋という目利きを活かし、選り抜かれた希少な日本酒が、驚くほどリーズナブルに提供されています。水色が美しく輝くガラスの1合徳利にお酒が満たされ、磨き込まれた木製のカウンターに置かれる瞬間、日常の疲れは静かに溶けていきます。

夜が深まり、ライトアップされた明治の建物が闇に浮かび上がると、そこだけが別の時間を刻んでいるかのような錯覚に陥ります。

浩之さん、恵子さん夫妻、そして精浩さん、京子さん夫妻の4人が守るその願いは、一皿の料理、一杯のお酒を通じて、三田の夜に静かに染み渡っていきます。

姿を変えゆくまちの中で、津國屋の暖簾は、わたしたちが決して忘れてはならない「情」と「誇り」を今夜も照らし続けています。まちに人が暮らし、歴史を繋いでいくことの尊さを、この美しい木造の屋根が教えてくれているのです。

取材:森 明/早川 由紀 文:早川 由紀

INFORMATION 津國屋(つのくにや)
三田2-16-8 TEL 03-3451-0298
https://www.instagram.com/tuno_kuniya

人と人とが関わり合い、 新しい一歩が踏み出せるお手伝いを。

港区立産業振興センター副センター長 にしおかあつし 西岡篤史さん

令和4年(2022)4月の開館から4年が経過した今、港区立産業振興センターは、単なる事業創出や支援にとどまらず、人と社会の関係構築の役割を担っています。産業は企業だけでなく、「人」が動き出すことで活気づく。その前提を当たり前のように体现しているのが西岡さんです。朗らかな笑顔と柔らかな印象の奥に、人を惹きつける確かな情熱を感じさせてくれます。

産業振興センター(センター)の存在

西岡さんは、センターの位置づけについてこう語ります。
「中小企業支援という役割はもちろんありますが、それ以上に「関われる場所」だと思っています。何かをもらいに来る場所ではなくて、人が関わりあうことで何かが動き出す場所ですね」
さらに、「我々が何かして差し上げるといふ発想はないんです。できる人とできない人をつないで、当事者同士で進めていく形をつくる。結局ひたすらマッチングなんですよ」と続けます。

企業支援という枠にとどまらず、人と人の関係性を動かすことこそ、センターの本質があります。センターは企業や事業体だけでなく、個人でも参加できます。
「特別なスキルがなくても大丈夫です。「何かやりたい」という段階でも、人と話しているうちに少しずつ見えてくることが多いんですよ。クリエイターは特別な人ではなく、何かを考えて形にしようとする人のことだと思っています」
関わろうとする意思があれば誰もがその1歩を踏み出せる空間であり、西岡さんが描く「一億総クリエイター」化構想のもと、つながりの中で形作られていきます。

港区ならではの「産業振興」の特徴

港区での産業振興をどのように考えるか?西岡さんによると、「港区は、圧倒的に人的資本の集積なんですよ。たまたまこのエリアに集積しているだけで、それがまだ十分に結びついているわけではないんです。だから、もったいない。これだけ人がいるなら、つなぐことで新しいものを生み出せるチャンスがある」と話します。多様な人材が集積しながらも、それぞれが独立して存在している現状。その関係性を横断的に活かしていくことで、新たな動きが生まれていく可能性が広がっていくように感じられます。

その可能性は どのように現実へと 変わるのか。

西岡さんは笑顔でこう話します。「人が人を呼ぶんですよ。やりましょう、やりましょうと、勝手に広がっていくんです」と。
センターでは、出会いから生まれたアイデアの約6〜7割が実際の取り組みとして具体化しているといいます。1人



大きな笑顔の西岡さん。朗らかで楽しいお人柄です

では曖昧だった構想も、人とつながることで現実の動きへと変わっていきます。
その中で西岡さんが大切にしているのが、「まずは自分がどう関わるか」という姿勢であり、課題に対して環境や状況に目が向きがちな中でも、変化を生み出すには主体的な関わりが必要であることを感じさせます。
社会には多くの課題がありますが、その全てに明確な答えがあるわけではありません。
西岡さんはこう語ります。「何か一つの答えを出すというよりも、人と人がつながることで動きが生まれていくという感じだと思います。人が動くことで、結果的にいろいろなところにつながっていくと思っています」

開館から4年。西岡さんの溢れる感情とアイデアに引き寄せられるように、センターには多様な人と事業者が集まっています。対話の中から生まれたアイデアは少しずつ形を持ち、人と人がつながることで、その動きはさらに広がっています。そうした一つひとつの連なりが、社会の課題に向き合う新たな視点や取り組みを生み出し、解決へと近づく可能性を広げています。

《イベント参加レポート》

港区立産業振興センターが開催したイベント『Tamachi Mirai Forum』(https://minato-sansin.com/events/tmf_2026_1/)にも参加した。多様な立場の参加者が集まり、それぞれの視点から意見を交わす中で、課題を自分ごととして捉える機会となっていた。

参加し、考え、対話する。その過程そのものがこの場の特徴であり、1歩踏み出すことで新たな動きが生まれる起点になっていると感じた。



取材・文：高橋 直子

INFORMATION 港区立産業振興センター
芝5-36-4 札の辻スクエア 9F・10F・11F
TEL 03-6435-0601

まるで我が家のリビング 「ご近所ラボ」新橋

めんどくさいカフェタイム 「めんどくさい」が生む至福の時間

港区新橋六丁目にある「新橋きらきらプラザ」1階にある「ご近所ラボ新橋」のイベントカレンダーに「めんどくさいカフェタイム」の文字が、。
「??めんどくさいって何のこと?」と気になり、取材に伺いました。

このイベントは月3回くらいの不定期で開催され、時間は土地柄お勤め帰りの方が立ち寄れる18時からのスタート、会費は1杯300円(材料費等実費)で予約もいりません。

ご近所ラボ新橋のマスターの吉富啓祐(とみ)さんは珈琲豆の焙煎業もされているご

近所イノベータ養成講座終了生ボランティアです。イタリア製のエスプレッソマシン、いくつもの本格的な抽出道具や、ご自身で生豆から焙煎した、さまざまな地域の珈琲豆などを取り揃え、まずはコーヒーの淹



本格的な抽出道具とエスプレッソマシン



みことなカップさばき



道具の使い方から丁寧に教えてください

ふらりと
お立ち寄りください!

れ方の実演で見事な葉っぱのラテアートを披露してくれました。

次は初めて参加の女性に手ほどきしながら、3種類の豆から選んで挽いた粉をエスプレッソマシンで抽出し、カップを片手でそっと支えながらミルクをゆっくり注いでいきます。少し不安げにそっと手を動かすときれいなハートが浮かび上がり、思わず「できた!」、更にひと口飲んで「おいしい!」と満面の笑顔に、わたしたちも嬉しくなりました。

次々と馴染みのメンバーも訪れ、会話しながら慣れた手つきでそれぞれの模様のラテアートを完成させていきます。

まち中に溢れるカフェで、誰かが淹れてくれるコーヒーもいけれど、自分で作るひと手間があるからこそ、おいしく味わえて会話が生まれる、ここでの「めんどくさい」ってそういう心地良い時間のことなのかもしれません。とみーさんのコーヒーへのこだわりの原点は、子どもの頃におじいちゃんの家に行くと、決まって挽いて淹れていた珈琲のふわっとした香りだと言います。そんなゆったりと温かい時間を、今は都会の真ん中の「ご近所」の皆さんに共有してくれているのでしょう。また今度立ち寄ってみたいと思いつつ「ご近所ラボ」を後にしました。



かわいいハート模様



とみーさんの手ほどきでラテアートの完成です!

INFORMATION

ご近所ラボ新橋 新橋6-4-2 きらきらプラザ新橋1階
TEL 03-6459-0789 MAIL lab@gokinjo-i.jp
http://lab.gokinjo-i.jp



取材・文：谷田部 尚子
写真：ジョー イージン

芝の家・ちゃぶ台日誌 夏編

芝の家の日常とイベントをご紹介します

昨年度の「いろはにほへと芝まつり」でも寄席を披露くださった慶應義塾大学落語研究会の皆さんと、芝の家で落語と講談を楽しむ会「芝の家寄席」を開催。落語と講談という日本の伝統芸能をいろいろな世代の皆さんが楽しみながら学べる、とてもいい時間を過ごしました。



ご紹介できていないこともたくさん。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

INFORMATION

芝の家 芝3-26-8 TEL 03-3453-0474
〈開室日時〉火〜金 11:00〜16:00 土 12:00〜17:00
※芝のはらっぱ活動日を除く
〈休室日〉日・月・祝
http://www.shibanoie.net
開室時間は変更が生じる場合もあります。最新の情報はホームページや掲示板をご覧ください。

どなたでも自由に入出りできる「まちの交流拠点」芝の家。日々近所の方から遠方の方まで、年代も0歳〜学生〜シニア世代の方まで、多種多様な方が立ち寄ります。

今回は芝の家で活躍してくださっている大学生の皆さんをご紹介します。



「ちゃぶ台日誌」は、芝の家ホームページにて日々の様子やイベントのお知らせを投稿するブログのタイトル。ホームページも合わせてご覧ください。

芝の家の大学生スタッフのMさんは明治学院大学KENDAMA部に所属。Mさんがいる日はプロの技を間近で見ることや、コツを教わったりできます。Mさんがいない日でもけん玉を手にする人たちが、特に子どもたちが増えました!そして、Mさんのいる日はけん玉検定を受けることもできますので是非挑戦してみてください。



文：芝の家・芝地区総合支所協働推進課

芝の家は、芝地区の地域事業「地域をつなぐ!交流の場づくりプロジェクト」の拠点。港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働で始まり、事務局スタッフとボランティアスタッフが日々の場を運営しています。姉妹拠点「ご近所ラボ新橋」(港区新橋6-4-2)と合わせてお気軽にお立ち寄りください。



しばたぐ編集委員おすすめの

しばあるき

Photo Essay in Shiba

心地よい風が吹き抜ける 夜の芝公園散策

夜の8時すぎ、都営地下鉄三田線芝公園駅A4出口の階段を上り地上に出てみる。ゴールデンウィークの連日の季節外れの暑さが続く中で、吹き抜ける風が心地よい。

増上寺の方へゆっくりと歩き出すと、左手に赤く照らし出された幻想的な風景が目飛び込んできた。徳川家康を祭神とする四大東照宮のひとつである芝東照宮だ。軽くお参りをして歩を進めると、ぱっと視界が開ける。

芝公園の中央には都心とは思えないほど広々とした芝生広場があり、ライトアップされた東京タワーが背景に浮かび上がる。268台のライトで描かれるという「インフィニティ・ダイヤモンドヴェール」のライトアップは、実に美しい。

公園内では、さまざまな人たちが思い思いに過ごしている。滑り台で遊ぶ子ども、バラ園や東京タワーをバックに写真を撮る学生たちやご夫婦、ベンチに座りひとりスマートフォンに入っているサラリーマン。ここはまさに区民の憩いの場だ。

隣接する増上寺では三解脱門の改修工事が行われているが、工事囲いに描かれたリアルな門の絵を見られるのも今だけと考えたら、ちょっと楽しい。

今年の夏も暑い日が続くだろう。そんな日は、夜の芝公園で夕涼みをしたいものだ。



カラフルにライトアップされた東京タワー



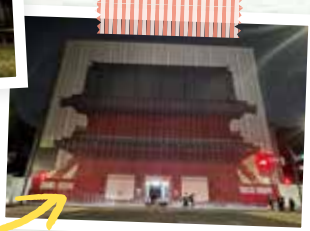
運がよければ、消防団の訓練風景に出会えるかもしれない



芝生広場での過ごし方は自分次第



美しく浮かび上がる旧徳院霊廟惣門



三解脱門が描かれた工事囲いは今だけのお楽しみかも

取材・文・撮影：景山 潔

芝地区MAP

1～20
旧町名由来板の
設置場所



- 1 愛宕山→P1、2
- 2 虎ノ門いきいきプラザ→P3
- 3 港区立みなと芸術センター「m～m」→P4
- 4 津国屋→P5
- 5 港区立産業振興センター→P6
- 6 ご近所ラボ新橋→P7
- 7 芝の家→P7
- 8 芝公園→P8

港都税事務所からのお知らせ

① 固定資産税・都市計画税の現所有者申告制度について(23区内)

現所有者申告制度は、土地・家屋の所有者が亡くなった場合、相続人など新たに所有者(現所有者)となった方から、3か月以内に、ご自身が現所有者であることを申告していただく制度です。制度の詳細は、東京都主税局 HP 又は下記問合せ先へ。
また、土地・家屋の所有者が亡くなった場合は、早めの相続登記をご検討ください。

問合せ：港区にある物件について
港都税事務所 03 (5549) 3800 (代表)

② 令和8年度の固定資産税・都市計画税の軽減措置の継続についてお知らせします(23区内)

①商業地等に対する固定資産税・都市計画税の負担水準の上限引下げ減額措置
②小規模非住宅用地に対する固定資産税・都市計画税の減免措置③小規模住宅用地に対する都市計画税の軽減措置④耐震化のための建替え又は改修を行った住宅に対する固定資産税・都市計画税の減免措置⑤不燃化特区内における建替え又は老朽住宅等除却土地に対する固定資産税・都市計画税の減免措置については、令和8年度も継続します(④⑤については適用期限を令和12年度末まで延長)。詳細は、東京都主税局 HP 又は下記問合せ先へ

問合せ：港区に所在する土地・家屋について
港都税事務所 03 (5549) 3804 (固定資産税班)

③ 不動産登記申請時には課税明細書がご利用いただけます

不動産登記の申請を行う際には、登録免許税の算定のため、固定資産の価格を記載する必要があります。その価格は、「固定資産税・都市計画税 納税通知書」と一緒(6月)にお送りする、課税明細書でご確認いただけますので、有料の評価証明は原則不要です。詳しくは東京都主税局ホームページをご覧ください。

https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/shitsumon/real_estate/o#o31

芝地区総合支所 公式SNS



Instagram
@minato_shiba_official



つながる港、つなげる未来



港区は
令和9年3月15日に
区政80周年を
迎えます

各支所では、地域情報誌(情報紙)を定期的に発行しています。

支所内各戸配布のほか、港区立図書館(高輪図書館分室を除く)・各いきいきプラザで閲覧可能です。

- 芝地区総合支所「しばタグ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」
- 高輪地区総合支所「みなとつづ」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあつぷ」

区役所のサービスや施設・催しの案内
みなとコール
TEL 03-5472-3710
(年中無休 8:00～20:00)

買い物
するなら
地元の
商店街で
Going shopping?
Visit our
shopping
streets.

港区芝地区総合支所協働推進課
〒105-8511 港区芝公園1-5-25(港区役所2階)
TEL 03-3578-3192 FAX 03-3578-3180
<https://www.city.minato.tokyo.jp>



●編集委員……伊藤早苗/菊池弓可/桑原庸嘉子/小坂靖浩/白坂亜優奈/高橋直子/千葉みな子/中原たづ子/早川由紀/逸見チエコ/森明/谷田部尚子/仲間優/景山潔(敬称略)
●配布場所……芝地区総合支所内の地域(芝、海岸一丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田一～三丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕)の方にお届けしているほか、地区内各施設などで配布しています。